

石の電池
新日燃料

敦井産業が共同試験

家庭用普及へ3年間実施

建設資材など総合卸業の敦井産業(新潟市)は、

新日本石油と共同で家庭用燃料電池の実証試験を開始した。新日石が開発した燃料電池の販売普及

に向けた試験。敦井産業は新日石の特約店で、試

験は同市内にある敦井産業の社宅で三年間実施。蓄積されたデータやノウハウを生かして実用化し

ていきたい考えだ。

使用する燃料電池は、

発電ユニット内で燃料のLPガスから取り出した水を蒸し、空気中の酸素と反応させ電気を導るタイプで、定格出力は七百五十ワット。反応の過程で発生する熱は併設する貯湯ユニットへ送り給湯に利用する。電力が不足した際は、東北電力から供給を受ける。

に渡り新日石側へ送る。

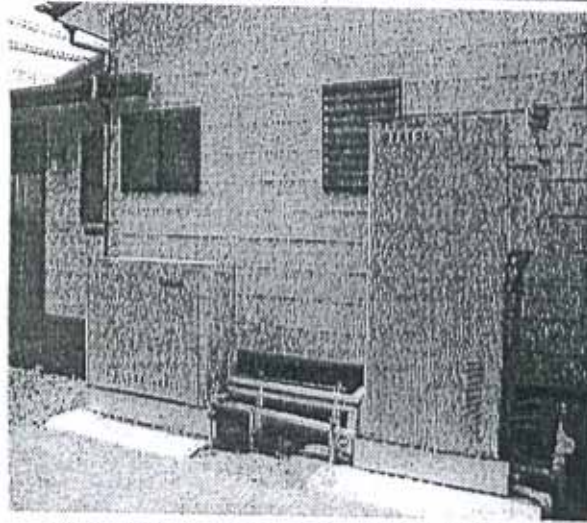
燃料電池は二酸化炭素

の排出削減のほかに、光熱費の低減効果が期待される。今回の実験に使用するものは新日石側の試算で、四人家族の場合、電気、ガスを合わせた光熱費全体で年間約六万円の節約になるという。

燃料電池の普及に向け、国が二〇一〇年に一般家庭で百二十万台の導入を目指しており、本

新日石から借り受け使用。運転時間や発電量、消費電力のほか、稼働中のエラーなどのデータは、回線を通じ、三年間

年度から「定置用燃料電池大規模実証事業」を実施。今回の試験も国の事業を活用したもので、新日石は敦井産業など特約



敦井産業社宅に設置された燃料電池
=新潟市

店などを通じ、四十四台を全国の一般家庭などに設置した。新日石のほか、二〇〇五年上期では東京ガスや大阪ガスなども実施している。